

植物相調査及び標本室の管理運営事業 報告書

早坂徹¹・木村紗重子²

1 仙台市野草園 園長

2 仙台市野草園

概要:仙台市野草園の標本室(SWG)は平成20年の新野草館建築の際に新しく設けられた。この標本室に収められている標本は仙台市を中心とした宮城県内で採集された維管束植物の押し葉標本が主体となっている。本事業は(公財)仙台市公園緑地協会の自主事業「植物相調査及び標本室の管理運営事業」として行い、事業内容は「標本の整理と収蔵・管理保管する作業」「希望者への標本室の利用と標本の閲覧」「野草園利用者が標本と親しむ催しの開催」「植物相の調査」である。

1. 令和5年度の事業内容

令和5年度は「標本の作製と整理作業」の実施、希望者への「標本室の利用と標本の閲覧」、野草園のイベントとして「押し葉標本教室」の実施と展示会「自然観察と標本展」の開催、「野草園植物目録第5版に向けた作業」を実施した。

2. 標本の作製と整理作業

標本の作成、整理と収蔵、外部施設への標本の寄贈の作業は毎月1から2回の作業日を設けて、植物関連の任意団体 宮城植物の会の野草園標本室協力チームの協力を得て行っている(写真1)。

実施した作業日数と作業人数は表1のとおりである。作業人数は延べ人数としている。前年度と比べて作業日数が減少したのは、標本室の冷凍庫が故障したまま新調できず整理作業しかできなかったからである。標本室の管理運営が滞らないよう冷凍庫の新調については予算要求中である。

令和6年3月5日現在、整理されて標本室に収蔵された押し葉標本は45,375点である。

表1:令和5年度 標本整理作業実施回数と人数

月	作業回数	作業人数
4月	3回	27名
5月	3回	10名
6月	2回	2名
7月	4回	4名
8月	1回	1名
9月	0回	0名
10月	1回	7名
11月	1回	7名
12月	2回	14名
1月	0回	0名
2月	3回	11名
3月	1回	7名
計	21回	90名

※作業人数は延べ人数



写真 1: 標本作製作業の様子

3. 標本室の利用と標本の閲覧

今年度の標本室の利用は、標本作製と整理・収蔵を学びに来た利用が2回、NHK連続テレビ小説「らんまん」放送の影響からスエコザサと牧野富太郎関連の取材での利用が2回、植物関連団体の利用が3回、高校生・大学生の標本閲覧が2回、一般の標本閲覧が2回、押し葉標本教室と中学生の職場体験での標本室見学が8回、一般の標本づくり学びでの利用が1回で利用回数と人数は延べ20回81名だった(表2)。

今年は職場体験での利用が多かったが、普段子どもが授業で標本に触れる機会はないと言ってよい。職場体験で標本と標本室の説明を受けることで、自身の職業選択の中に科学という分野があることの気づきにもつながると思う。

表 2: 標本室の利用

月	利用者(個人・団体・イベント)	人数
4月	・環境調査の企業((株)エコリス)が標本の作成と整理を学び利用(全2回)	8名
5月	・スエコザサの取材(河北新報社)	1名
6月	・宮城植物の会 ・東北大学生が標本閲覧	12名 3名
7月	・個人より標本のつくり方を学ぶため標本室見学・標本閲覧	2名
8月	・「自然観察と標本展」にて収蔵標本の活用	—

	・牧野富太郎関連取材(テレビ高知) ・八木山中学校標本室見学	1名 2名
10月	・富沢中学校標本室見学	4名
11月	・郡山中学校標本室見学 ・愛宕中学校標本室見学 ・宮城教育大学附属中学校標本室見学 ・山田中学校標本室見学 ・五橋中学校標本室見学 ・宮城植物の会	4名 3名 3名 4名 3名 14名
1月	・個人標本閲覧(タケ亜科)	1名
2月	・個人標本閲覧(キク科)	1名
3月	・仙台第一高等学校標本閲覧(チョウジソウ・サクラソウ) ・東北植物研究会	4名 11名

※8月の展示観覧者はカウントしていない

4. 自然観察と標本展の実施

「企画展 自然観察と標本展」を夏休み期間中の8月6日(日)から8月20日(日)の15日間、野草館企画展示室1階において実施した(写真2から5)。この展示は子どもに自然や標本に興味を持ってもらうこと、保護者には子どもと一緒に自然に親しむためには、どのように自然にアプローチしたらよいか考えてもらうことを目的としている。

展示は「自然とはなにか」「自然と遊ぶ」「自然を調べる」「標本を見る・作り方を学ぶ」と5つに内容をわけて行った。押し葉標本は毎年テーマを設けて展示しており、今年のテーマは「色々なハギの仲間」として仙台市や近郊で見られるハギの標本を解説と共に展示した。昆虫標本は野草園で採集したものと、園長の個人標本から仙台で見られる昆虫の標本を借用して展示した。

会場は受付制ではなく、自由観覧の形をとっているため観覧者のカウントは行っていないが、15日間の来園者数は563名で、そのうち中学生以下の子どもは80名だった。



写真 2:「自然観察と標本展」展示風景



写真 3:「自然観察と標本展」観覧する親子連れ



写真 4, 5:「自然観察と標本展」昆虫標本と押し葉標本

5. 押し葉標本教室の実施

小学生以下の子どもと保護者を対象として「こども夏休み企画 押し葉標本教室「標本の額飾りをつくろう」」を実施した(写真6から8)。このワークショ

ップは押し葉標本のつくり方を子ども向けにわかりやすく学び、仕上がる標本も研究者が使用するようなものとは違う、自然と親しんだ記念として自宅で飾って楽しめるものになっている。今年度は7月29日(土)に実施し、参加者は2組5名(キャンセル1組2名)だった。年度によって参加者数にはばらつきがあり今年度は少ない人数での開催となったが、自然を学びたいと思う利用者の受け皿として今後も実施していきたいと考える。



写真 6:「標本の額飾りをつくろう」標本室の見学



写真 7:「標本の額飾りをつくろう」植物採集



写真 8:「標本の額飾りをつくろう」の様子

6. 「野草園植物目録第5版に向けた作業」

この作業は「仙台市野草園植物目録 第4版」の後継、第5版の発行を目的として令和4年度から行

っている。植物園の資料として第5版の発行は重要な意味があるが、管理作業を行いながらの調査作業は時間が取れず早期の実現が難しい。地道に作業は継続するが人手を増やすことも検討した方がいいと考えている。

7. まとめ

標本の作製と整理は、冷凍庫の故障のためできる限りの作業となったがその中では順調に行うことができた。標本室の活用としては、展示会での標本の観覧や一般の利用者や学生、勉強や取材等で標本室を利用いただく機会があり良かったと思う。

今後も目録第5版の発行のための調査と標本室活用の充実を進めて行きたい。